
「指示の理論(theory of reference)」1

—指示の理論の問題とは？

「指示の理論(theory of reference)」2

—記述説

「指示の理論(theory of reference)」3

—記述の束説

「指示の理論(theory of reference)」4

—指示の因果説(歴史的説明理論)

「指示の理論(theory of reference)」5

—指示の因果説と「本質」主義

「指示の理論(theory of reference)」6

—因果説による「指示の成立」の説明

指示の因果説批判1

—オリジナル・パラダイムの喪失(1): 指示の因果説におけるノン・オリジナルなパラダイムの軽視

指示の因果説批判2

—オリジナル・パラダイムの喪失(2):オリジナル
の喪失の現実味

指示の因果説批判3

—オリジナル・パラダイムの喪失(3):オリジナルの喪失は因果説にとって致命的である

- では、オリジナルは？・・・行方不明
- オリジナルが「金」か「黄鉄鉱」かが、そもそも不明。
- 因果関係が連続していたのか、断続していたのかが分からない。
- 「指示の因果説」=指示対象は最初の命名儀式からの適切な因果関係によって決定される。
- 「命名儀式からの因果関係」が成り立っているかどうかの決定的な指標=オリジナル(と同じもの・同種のもの)を指示し続けていること。
- 「適切な因果関係」の弁別基準である「オリジナルな指示対象」が行方不明。
- 「適切な因果関係」、ひいては「適切な指示の対象」を弁別できない。
- 指示の理論としては役に立たない。

指示の因果説批判4

—オリジナル・パラダイムの喪失(4): 分岐アーキタイプ理論の利点

意味の理論(1)

—意味の理論の諸説(1): 指示説、観念説、使用説、言語行為説

意味の理論(2)

—意味の理論の諸説(2): 検証説、真理条件説、
意味消去説

意味の理論(3)

—「意味の理論」と「本質主義」

意味の理論(4)

—「分岐アーキタイプ論」を採る限り、「一意的な意味」＝「意味としての本質」は成り立たない

コミュニケーションの成立(1)

—コミュニケーションは意図の伝達か？

コミュニケーションの成立(2)

—「コミュニケーションの成立は意図の伝達を保証するか？」という問いそのものの不適切さ

コミュニケーションの成立(3)

—感情のコミュニケーション

コミュニケーションの成立(4)

—共感感情の発動のメカニズム

コミュニケーションの成立(5)

—「コミュニケーションの成立」という事態の分析

コミュニケーションの成立(6)

—「意味の共有」なきコミュニケーション